週間情報

№0718
発行日　令和7年5月20日
発行所　全国消防長会
　　一般財団法人全国消防協会
担　当　企画部企画課　03-4500-6622

消防本部の動き

行　　事

◆　新庁舎の竣工式を挙行

峡北広域行政事務組合消防本部（山梨）

峡北広域行政事務組合消防本部では、令和７年４月２４日（木）、関係者をお招きし、新庁舎（北杜消防署高根分署）の竣工式を挙行しました。

この新庁舎は、耐震構造を有し、持続可能な消防活動拠点とするための機能性と安全性を高めたほか、効率的な動線に配慮するとともに、働きやすい職場環境に改善しました。

当消防本部は、全ての庁舎が更新され、「峡北消防本部消防署所再編整備計画」に基づく事業が完了し、同月２７日（日）には、地域住民などに対して新庁舎の見学会を開催しました。

今後、新庁舎は５０年以上使用し、次世代へと受け継いでまいります。

【新庁舎】

【竣工式後の記念撮影】

訓　　練

◆　救急活動訓練効果確認を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁世田谷消防署では、令和７年４月２３日（水）、２４日（木）の２日間、救急活動訓練効果確認を実施しました。

この効果確認は、近年、コロナ禍の影響によりビデオ審査で実施していましたが、今年度から５年ぶりに実動で実施したものです。

参加した部隊は、効果確認に先立ち、救急需要が増大する中、各隊が時間を捻出しながら訓練を重ね、隊員間の連携力と現場力の向上につなげてきました。

当日は、署長をはじめ多くの審査者が見守る中、６種類の訓練想定を開始直前に無作為に付与し、臨場感のある訓練が繰り広げられました。

また、効果確認終了後の反省会では、参加部隊がそれぞれの課題を見つけるとともに、改善点を共有することができ、技術のさらなる向上を図ることができました。

今後も、緊張感のある訓練を継続し、救急技術の錬磨に努めてまいります。

【効果確認の様子】

◆　大規模災害時を想定した警防本部運営訓練の実施

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部では、令和７年４月２３日（水）から２５日（金）までの３日間、全職員を対象に大規模災害時を想定した警防本部運営訓練を実施しました。

この訓練は、消防本部と各消防署の情報連絡体制と警防本部体制の強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、「近隣の市において震度５強の地震が発生した。」との想定で、さまざまな事案の指令をブラインド形式で付与し、警防本部の設置から運営までの訓練を実施しました。

当消防本部は、静岡県東部に位置しており、今後、発生が危惧されている南海トラフ地震により被災することが想定されていることから、今後も訓練を継続し、県内消防応援隊と緊急消防援助隊の要請や受入れなどの受援体制を強化してまいります。

【訓練の様子】

◆　緊急消防援助隊後方支援訓練を実施

茨城西南広域消防本部（茨城）

茨城西南広域消防本部では、令和７年５月１日（木）、緊急消防援助隊後方支援訓練を実施しました。

この訓練は、過去の経験を踏まえた実践的な訓練を行うことで、当消防本部における後方支援隊の強化を図ることを目的として、毎月実施しているものです。

当日は、従来の訓練参加者を１３人から４８人に増員し、今年度１１月に実施予定の「緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練プロジェクトチーム」や近隣のつくば市消防本部が視察する中、基礎的な資機材と拠点機能形成車の取り扱い訓練を行いました。

【訓練の様子】

研　　修

◆　車両火災対応研修を実施

和泉市消防本部（大阪）

和泉市消防本部では、令和７年５月２日（金）、トヨタカローラ南海株式会社にご協力いただき、車両火災対応研修を実施しました。

この研修は、火災原因調査経験が浅い職員の調査技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、専門性が特に必要とされる車両の基本的な機能・構造について学んだほか、車両火災における、専門家の視点から見る火災原因の着眼点について確認することができ、大変、有意義な研修となりました。

今後も、同研修で得た知識を火災原因調査業務に役立て、火災原因の究明と火災予防に努めてまいります。

【研修の様子】

そ　の　他

◆　消防協力団体に感謝状を贈呈

豊橋市消防本部（愛知）

豊橋市消防本部では、令和７年４月２８日（月）、消防協力団体（中学校）に対し、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年２月２６日（水）、管内の中学校内で発生した救急事案において、部活動中に心肺停止となった生徒に対して、複数の教員が連携し、１１９番通報、胸骨圧迫、ＡＥＤを活用した除細動を実施し、救急隊に引き継いだものです。

生徒は、教員の迅速・的確な行動により尊い命が救われました。

本橋由行消防長は「先生方の勇気ある行動により、的確なＡＥＤの取り扱いと応急手当、そして１１９番通報に至るすべての行動が一つの大切な命を救った奏功事例であり、他校の模範となる素晴らしい救命のリレーによって、大切な生徒の尊い命を救っていただいたことに感謝を申し上げます。」と述べました。

【感謝状贈呈の様子】

【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆　消防協力者に感謝状を贈呈

多治見市消防本部（岐阜）

多治見市消防本部では、令和７年５月２日(金)、消防協力者の３人(体育館職員)に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年２月１１日(火)、多治見市内の体育館で発生した救急事案において、パドルテニス中に心肺停止となった６８歳男性に対して、消防協力者の３人が連携し、１１９番通報、胸骨圧迫、ＡＥＤを活用した除細動を行い、救急隊に引き継いだものです。

消防協力者３人の適切な行動と途切れることのない「救命の連鎖」により、尊い命が救われました。

【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆　防火・防災の普及啓発活動を実施

松山市消防局（愛媛）

松山市消防局では、令和７年４月２６日（土）、２７日（日）の２日間、「圓満寺」において、防火・防災の普及啓発活動を実施しました。

「圓満寺」湯の大地蔵尊は、「火除け地蔵」ともいわれ、災害厄除けや火除け祈願のご利益を授かるため、多くの参拝客が訪れる場所です。

当日は、道後エリアが賑わう中、水消火器による消火体験と防火服の着用コーナーを設けたほか、市民の方々にパンフレットを配布し、防火・防災について考えていただける機会となりました。

火除け地蔵のご利益で、全国の火災や災害が減少することを心から願うとともに、今後も、さまざまな取り組みを通じて、市民の方々と一緒に防火・防災意識を高めてまいります。

【普及啓発活動の様子】

◆　火災予防広報を実施

豊岡市消防本部（兵庫）

豊岡市消防本部では、令和７年３月１４日（金）から４月３０日（水）までの期間中、火災予防広報を実施しました。

この広報活動は、火入れや野焼きが原因となる火災の発生率が高いことから、火災予防啓発を図ることを目的として実施したものです。

期間中は、６署所が「その他の火災 撲滅〇〇大作戦」と独自の作戦名を掲げ、地域性を鑑みながら、車両と防災行政無線を活用した広報、県市の関係部局や警察と連携した広報を行いました。

また、火入れなどの常習場所を図面に明示したほか、予防啓発チラシを地区区長会・農会で配布し、これらの取り組みにより、火災件数が半減しました。

今後も、火災発生件数の減少につながる施策を推進してまいります。

【車両広報の様子】

【予防啓発チラシ】

情報提供

◆　令和７年度予防技術検定受検準備講習会の実施について

一般財団法人消防防災科学センター

１　趣旨

予防技術資格者の絶対数の不足への対応や経験豊かな予防技術資格者の退職に伴う資質の向上が課題となっていることを踏まえ、一般財団法人消防防災科学センター（以下「センター」という。）では、平成２８年度から予防技術資格者に関する資格取得の支援および資質の向上に係わる事業を行っています。

事業内容としては、予防技術検定の受検促進と合格者の増加を図るため、予防技術検定の共通科目と３専攻科目（防火査察科目編、消防用設備等科目編、危険物科目編）の学習用テキストおよび演習問題の作成を行い、消防職員の受検支援を行っています。

また、平成３０年度に全国の消防本部を対象に実施した「予防技術資格者の資格取得促進対策調査」において、多くの消防本部から学習テキストなどの提供だけではなく、専門講師派遣による受検準備講習会の開催を要望する意見があったことを踏まえ，令和元年度からは、全国消防長会の協力を得て、全国９ブロックにおいて「予防技術検定受検準備講習会」を開催しています。

講習会終了後のアンケート結果によれば今後も講習会開催の継続を要望する意見が多くありましたので、本年度も引き続き全国９ブロックにおいて「令和７年度予防技術検定受検準備講習会」を開催し受検の支援を行うものです。

２　講習会およびテキスト購入の概要

	内　　容
主　　催	一般財団法人消防防災科学センター
開催場所および日時	全国９ブロック２３会場で開催（詳細はセンターホームページ参照）
対 象 者	原則として、消防職員で予防技術検定の受検を希望する者
参加費用など	・参加費用は無料です。 ・資料に「令和７年度版予防技術検定学習テキスト」を使用（実費購入）します。
講習会の実施要領	１　講習実施科目 ・講習科目は、共通科目編と専攻科目編３科目（防火査察科目編、消防用設備等科目編、危険物科目編）についてそれぞれ実施します。 ２　受講要領 ⑴　共通科目編について ・共通科目編はオンデマンド講習で行います。（オンデマンド配信は８月上旬を予定しています。） ・センターホームページの「消防支援事業」から選択、視聴してください。 ・オンデマンドでの配信教材は、「令和７年度版予防技術検定学習テキスト（共通科目編）」を基に編集・配信されますので、学習テキストを準備のうえ視聴してください。 ・所要時間は３時間３０分程度ですが、分割して視聴することもできます。 ⑵　専攻科目編について ・専攻科目編３科目については対面講習で行います。 ・講義はセンター派遣講師が令和７年度版予防技術検定学習テキスト（防火査察科目編、消防用設備等科目編、危険物科目編）に基づき実施します。 なお、一部共通科目編の内容を説明する場合があります。 ・講義は午前中２時間程度、午後は３時間３０分程度の一日講習となります。 ・各会場は定員になり次第締め切りとします。

専攻科目編の受講申し込み要領	1　専攻科目編の受講申し込みおよびテキスト購入に関する詳細はセンターホームページをご参照ください。(https://www.isad.or.jp/) 2　申し込みの**締め切り**は次のとおりです。 **テキスト：令和７年７月３１日（木）** **講 習 会：令和７年８月２９日（金）** 申し込み締め切り後、他に受講希望者がある場合にはセンター担当まで連絡してください。会場の状況により受講が可能な場合があります。

【担当】
消防支援室
松村　吉田　酒井　藤田　中森
℡：0422-24-7811
Email：yobou-shikaku@isad.or.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事
②知識・技術の伝承―教えて！消防技術―
③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（№０７１６）１ページ、機関誌「ほのお」２０２５年４号（４／２５発刊）２９ページを参照願います。
TEL：03-4500-6622　機関誌「ほのお」担当：企画課　中西
原稿データは、kikakoho@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド
【特徴】
・写真中心のビジュアルな広報
・紙媒体により記録性に優れる広報
【留意事項】
・文章は、Word で１００文字程度で作成をお願いします。
・写真は、Word に貼り付けず、JPEG 画像データを１枚送付してください。
・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
TEL：03-4500-6622　機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課　児嶋
原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。
※添付ファイルの容量が５ＭＢを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

・原則毎週刊行される、速報性のある広報
・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

・配信日（原則火曜日）から前２週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
・文章は、Word で２００～４００文字程度で作成をお願いします。
・写真は、１～２枚を Word に貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG 画像データを送付してください。）
・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課　木原
原稿データは、weekly@fcaj.gr.jp に送信願います。